

vol. 13

issued by SAPOSEN  
deep autumn 2018

特集  
p2-4

ボランティアする若者たち

p5-6 サポセンの事業報告

p6 [チャレンジャー]さくら広場の会

p7 [スタッフコラム]

妻の妊娠日記から

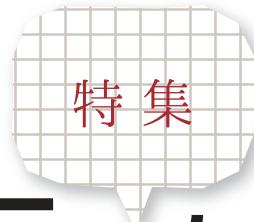
～子育てしやすい街ってなんだろな？～

p7 サポセン新規届出団体

p8 [ある日のサポセン]

無理なく長く、活動を続けるには？

# Volunteer



# ボランティアする 若者たち



度重なる自然災害の救援ボランティアや

2020年東京オリンピック・パラリンピックのボランティアなど、

「ボランティア」という言葉が世に溢れている昨今。

ふと目を向ければ、毎年、夏休みに

ボランティアをする若者たちがいます。



中には、ひと夏で10団体以上のボランティアに参加している人も。

今回は、さまざまな場で活躍する市内の高校生2人に

話を聞きました。



## — 何が楽しい？何が魅力？



当センター主催で毎年行う「Let's 体験 !!」(中学生～20代の夏のボランティア体験講座)のふりかえり文集作成委員4年目。学生ボランティア団体「Come Peers!!」の立ち上げメンバーでもあります。文集作成会議が始まる前の間にインタビュー。  
※「Come Peers!!」については次号で詳しく紹介する予定です。



I そもそも、そのボランティア先の活動に興味があるから、そこに行つてどんな活動かを知れるだけで充分満足。自分にとつてのモチベーションで言うと：コミュニケーションを取ることに少し苦手意識があつて。でもだからって誰ともコミュニケーションを取らないでいたらコミュニケーション能力がどんどん下がっちゃうから、むしろこれ以上下がらないようにするためには参加するようにしてる。

— そもそもボランティアに参加したきっかけは？  
紗夏ちゃん（以下 S）コイツ（→育実ちゃん）がきつかけ。

S & I 中2の時、夏休みヒマだなーって思つて、Twitterでたまたま『コレ（「Let's 体験 !!」）誰か行く人いない？』ってつぶやいたら、コイツ（→紗夏ちゃん）が「ええけど」って返してくれて。

— 学校で話したんじやなくて、Twitter上のやり取りなんだ（笑）

I 最初の動機は、やつとくと内申にいいかな、いよね。  
S & I 学校では、ボランティアの話なんてしないよね。

— もしボランティア活動に単位がつく、とかなつたらどう思う？

I ボランティアが夏休みの宿題になつてる学校もあるし、単位が『きつかけ』になるのはいいんじゃないかな。もし単位だけが目当ての子がいて活動先でやる気が無いのはどうかなって思うけど。

S 興味のある活動だつたら、別に単位にならなくとも行くし。

S & I 単位はオマケみたいなものだよね。  
— 今やボランティアにハマつてる感じだけど、それにマイナス感は無い？

I 私にとつては大きな存在。ずっと続けていくたいつて思う。

『ゲームの方が楽しい』って思つてる人だつてハマルかも？

— ボランティアが楽しい、っていうのは前提でいい？

S & I うん。楽しい。



今年は  
何やろうかなー

学校では  
ボランティアの話なんて  
しないけど…



コミュニケーション  
苦手な人にこそ  
オススメかも？



## ボランティアする若者たち

ふりかえり文集を制作しているメンバーの中には、社会人になつても働きながらボランティアを続けている人もいます。

インタビューの終わり頃、ふりかえり文集委員のメンバー達が会議のために集まつてきて、全員が揃つたところで会議がスタートしました。

この場の雰囲気で感じたことは、「同調圧力が低い」とことです。年齢も学校も好きな物もバラバラなメンバーだからこそ、お互いが自然体でいられる空間でした。会議中は、度々雑談が混じり、出入りも自由。そんなラフな雰囲気の中でも「私はこう思うけどどう?」という全体への問い合わせ、「AさんとBさんは世代も違うし視点が違うと思うから、両方の意見を聞きたい」という発言など、多様な人が集まる中での対話を重ねているメンバーならではの個々の「違う」を尊重する姿勢が見られました。

会議終了後には、昨年ふりかえり文集委員だったメンバーが、フィンランドの大学院に留学中とあって、LINEでビデオ通話をして「そつちはどうーー?」と会話を楽しんでいました。

ふりかえり文集委員のメンバー達が会議のために集まつてきて、全員が揃つたところで会議がスタートしました。



←小学生と一緒に宿題をしたり、オセロ・トランプ、UNOなどをして交流♪  
お屋やおやつを作る日も。



お料理・盛り付け・配膳・片づけ：  
洗い物などなど、できること、  
やってみたいことに何でもチャレンジ！

今年も  
300名以上  
が参加！

## 中学生～20代 夏のボランティア体験講座 Let's 体験!! 2018

ココロもカラダもアクティブに♪  
自分セカイを飛び越える！  
夏タイケン☆

今年も300名以上が参加した「夏のボランティア体験講座 Let's 体験!!」。半数以上の参加者はボランティア初体験というなか、「地域の活動を通じて若者を育てよう」という共通の想いを持つた受け入れ団体が約50のプログラムを提供しました。子ども・高齢者・障がい者等の場に若者が入ることで、お互いにとつて刺激や発見があつたようです。参加者のふりかえりシートを読むと、今までボランティアに対して抱いていた「大変、面倒、疲れるだけ、難しい、固い、疎遠」というマイナスのイメージから「楽しい、達成感を感じた」というプラスのイメージへ変化しているのが見えました。

ボランティアのイメージは...

**Before**

大変、面倒、疲れるだけ、  
難しい、固い、疎遠

**After**

楽しい、達成感を感じた

(※参加者の  
ふりかえりシートより)



今年で第4期を迎える「まちづくりキーパーソン養成講座」。いつも初回のゲストには全国から講師に来ていただいて、オープン講演会を開催しています。今回は横浜の戸塚でコミュニティカフェを運営されている、NPO法人こまちぶらすの森祐美子さんをお呼びしました。子育てが「まちの力」で豊かになる社会を目指して、孤立した子育てを無くすことを目的にカフェの運営をスタートし、今では地域の人たちや行政・企業を巻き込んだプロジェクトを仕掛けています。



子育てを、まちでプラスに。

**comachi  
plus**

NPO法人こまちぶらす・  
ホームページはこちら  
<https://comachiplus.org/>

こまちぶらす

対象 これから地域活動・市民活動やNPOに参加してみようと考えている方や自分自身の団体を立ち上げようと考えている方

まちづくりというと固く感じられてしまってかもしれないけれど、自分自身が楽しむと思えているかがポイント。それは仲間や利用してくれるママさんたちとの関係性づくりでも同じで、支援する・されるといふつながりではなく同じ目線で接していくことの重要性を感じました。

まちづくり  
キーパーソン養成講座

この講座では地域で活躍している先輩ゲストの実践してきたストーリーを聞き、自分が実現したいことを考えていきます。あなたの力がまちにつながる。そんな一歩と共に見つけていきましょう！

## 1 まちのチカラで 孤立しない子育てを支える

report

1

まちづくりキーパーソン養成講座・初回講演会



# Volunteer

何の気負いもなく、「興味の向くまま」にボランティアする若者たち。  
大人の期待や思惑を気にすることなく、  
彼・彼女達が主体的に選択して  
楽しんでいる姿が見えました。



森の手入れや自然観察会→  
竹細工教室、草木染体験…  
作業の後には 流しうめん！



report

2

## 地域活動に取り組むあなたのための "パートナーとの" "コミュニケーション講座

NPO・市民活動よろず相談室 開催レポート

市民活動に取り組む方の“あるある”な悩みの1つ…。それは、「自分の活動について、パートナー（夫・妻・恋人等）にわかつてもらえない!」ということ。なぜお金になるわけでもないのに、休日をつぶして活動するの？なんて言われて、げんなりした経験のある方も、多いのではないかでしょうか。

そんな状況を打破するために、大事なパートナーに自分の気持ちをきちんと伝え、また相手の気持ちも受け取ってゆくコツを学べる講座を開催しました。

講師はコミュニケーションの専門家、駒崎晴世さん（コミュニケーションサークルはれぽか代表／親業訓練インストラクター）。

台風が迫る中14名もの方にご参加いただき、自分を主語に伝える「I（アイ）メッセージ」の大切さを実感したり、聞き方を工夫することで、相手の気持ちを追体験でき相手への理解が増したり！

目からうろこの時間を過ごしました。

テーマは毎回変わります。

毎月開催するこの「よろず相談室」。

ぜひ広報まつど・HP等でご確認を!!



2018年7月28日(土)開催



地域の児童館のような  
場所にかかるのが嬉しい!  
いつもふらっと来られる

↑みんなで宿題やったり  
実験したり…  
自分がやりたいことを  
思い思いに。



←代表の二村たかえさん

〈チャレンジャー〉  
市民活動団体紹介

### さくら広場の会

Challenger

#### お問合せ

さくら広場の会（担当=二村たかえ）

E-mail nimuratacae@gmail.com

TEL 080-5454-0726



子どもたちが頑張らず、自分らしく  
いられる居場所を目指して。

「さくら広場」は週5回開いている小学生の居場所です。その広場を運営しているのが、さくら広場の会で、代表の二村たかえさんは小学生のお子さんがいるお母さん。育児中共働きで貯めた自費を投じて松戸駅西口ダイエー近くのビルの一室を賃貸契約し、リノベーションを経て2017年春にオープンしました。

「子どもたちが、誰かに話を聞いて欲しい、誰かと話したいと思ったときに気軽に来れる場所を作りたい」と、自らの体験をきっかけに以前より構想を温めていたのを実現。二村さんのあたたかい人柄や、遊びや学びを提供してくれる大人たちの協力もあり、夏休みは8畳2部屋ほどの広場が20人以上の子どもたちで賑わいました。今は1回300円の利用料ですが、誰でもいつでもふらっと来られるように、いずれは無料にして、毎日開き、広場を卒業した若者も時々遊びに来られるような、地域の児童館のような場所にしたい、と夢を膨らませる二村さん。「運営資金のためにバイトの日々ですが、学校で“家の周りの好きな場所”という質問に“さくら広場”って書いてくれた子に力をもらいました！」と嬉しそうに語ってくれました。

# 妻の妊娠日記から

「子育てしやすい街つてなんだろな?」

今は私自身、というより

妻の妊娠から感じたモヤモヤ感を通して  
「子育てしやすい街」について考えてみたいと思います。

この話の始まりは妊娠1ヶ月目。もしかしたら…?と、結婚4年目でまだ子どもがないなかた私たち夫婦にとって、これ以上ない嬉しさと不安が一気にやってきた日でした。そしてワクワクした気持ちを抱きながら、近所の婦人科があるクリニックへ。どうやつて選んでいいのかも分からず、女医さんだしいつか、と気軽に気持ちで通院を始めました。



でもしかし、既にここからモヤモヤ感がスタートしました。クリニックで診察してもらいい、晴れて妊娠していることを伝えられたのですが、何というか作業感。例えて言うなら、塾で先生に受験の指導を受けている感じで、「いついにはこうして、この時にはこうして…」と、あついう間に終わってしまった。こんなものなのかな?と思いつつ、モヤ×1。とりあえず役所に行つてくださいと言われ、今度は母子手帳をもらいに行きました。この後もいろいろなモヤポイントがあったのですが、それはまた別の機会に。



12/2(日)「まつどみらい会議」で  
思いっきり語り合いましょう♪



皆さんはどう思いますか?12月2日にサポセンで開催する「まつどみらい会議」ではそんなモヤモヤを語り合います。是非この続きをこちらで話しましょう!

子育てしやすい街つてなんでしょう?当事者になってみて一番感じたのは、もう少し街全体(医療や行政はもちろんのこと、お店や道行く人々)がウェルカムベビー!ってなつたら良いのに、ということです。妻はつわりが厳しい時に電車で席を譲ってくれた、たぶん10代くらいの男の子に感激していました。彼は一緒にいた彼女に良い所を見せたか?だけかも知れないけれど、それでもそんなちよつとした思いやりが街に少しずつあふれたら、きっとそれは子育てしやすい街なんじゃないかな?と。



まつど市民活動サポートセンター  
センター長 阿部剛



- ★新松戸七丁目町会 ★音・音楽フォーラム松戸 ★Clustogram Collection ★まつどWomen'sヘルスケアカレッジ
- ★日本中国友好協会東葛飾支部 ★心臓病の子どもを守る松戸親の会 ★花スケッチ・日本画の会 ★カトウの会
- ★松戸一輪車クラブMIC ★自然と歴史の松戸 ★ディスクゴルフ体験クラブ ★松戸手作り甲冑愛好会

皆さんにサポートセンターのことや市民活動のことをもっと知つてもらうために、これまでに寄せられたご質問や実際の出来事などをもとに、仮想のストーリーに仕立てた「Q&A風」のコーナーです。

## 無理なく長く、活動を続けるには?

いつも会議室で練習をしている、手遊びを交えた合唱サークル「ビヨンセのつどい」。ある日、会議室の前を通りかかると、なにやら喧嘩している声が外まで…。様子が気になつたコーディネーターが、メンバーのEさんの帰りがけに声を掛けると…。



次号に続く

## サポセン ニュースレター 2018年深秋・第13号



発行日：2018年11月5日(※年4回発行)

発行元：まつど市民活動サポートセンター(指定管理者 NPO 法人まつど NPO 協議会)

デザイン：トクナガリツコ

「ぱっく」の主な設置場所

松戸市内の図書館、市民センター、  
公民館など各種公共施設の他、  
松戸駅自由通路に設置しています。

「ぱっく」設置協力店

フェリーチェ(松戸新田)／デジラボ(本町)／  
Sampo Café(八ヶ崎7丁目)／  
古民家ホームシェア co-no-mi(吉井町2丁目)

### ぱっく の配架にご協力いただける お店・施設を募集します!

ニュースレター「ぱっく」を、お店や施設に配架していただけませんか?  
ご協力いただいたお店・施設は、この欄で名称・所在地等をご紹介いたします。  
もちろん、無料でお届けし、部数もご要望に応じます。  
広告掲載も募集中です。詳しくは、まつど市民活動サポートセンターまで、お電話・メール等でお気軽にお問合せください。



特集で参加したふりかえり文集会議では、初めて聞く単語のオンパレードでした。U.S.A、ヒノシスマイク、無課金勢、しののん、アムロ、ドブッた…。「あれ、私今日どこに行ってきたんだっけ…?」と一瞬わからなくなりながら家路へと自転車を漕ぎました。(菊)

## まつど市民活動 サポートセンター

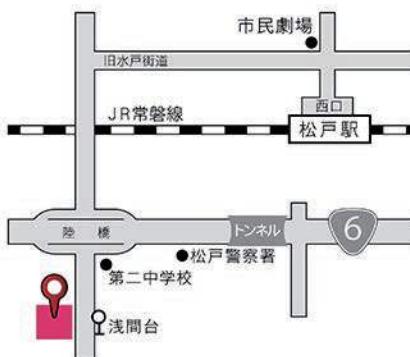
〒271-0094 松戸市上矢切 299-1(総合福祉会館内)

TEL : 047-365-5522 FAX : 047-365-5636

E-mail : hai\_saposen@matsudo-sc.com

URL : <http://www.matsudo-sc.com/>

facebook : <https://www.facebook.com/matsudo.sc>



○開館時間：月曜～土曜…9時～21時

日曜…9時～17時

○休館日：第1・第3水曜、年末年始(12/29～1/3)